

森の主に会いに行こう！ぼくらはみんな生きている！

令和 7 年度 緑の少年団交流集会『富士山まなびの森フォレストウォーク』活動レポート

7月30日（水）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『緑の少年団交流集会 富士山まなびの森フォレストウォーク』が富士山「まなびの森」にて開催されました。県内の4団体の少年団、計30名の子供たちが参加。時短での開催となりましたが実りの多い時間となりました。

開催が危ぶまれましたが、時短での開催が決定！

当日は、カムチャッカ地震の影響による津波警報の発令により、開催が危ぶまれましたが、時短で行うこととなりました。まずは、開会式からスタート。最初は、今回の運営を担当するNPO法人ホールアースのスタッフが、アイスブレイクタイムとして行った、富士山ゲームと集合ゲームに子供たちは大盛り上がり！すっかり打ち解けたところで、今日の注意事項についての説明がありました。「まなびの森」は天然林で様々な動物がいっぱいいることや、その中には、危険生物がいることについての話を真剣に聞く子供たち。「危ない生き物は？」の質問に、「蜂！」「クマ」の声が上がりました。スタッフが、「蜂が来たらどうする？」と問うと「動かないようにする！」と100点の答えがかえってきました。さすが、緑の少年団！！さあ、いよいよ森の中へ。

ぼくらはみんな生きている！

木漏れ日の中、森を進むと、ある地点でスタッフが立ち止まりました。「ここに集まって。」みんなが集まると、森の成り立ちの話が始まりました。「この森は、富士山の噴火で溶岩が流れて一度全部燃えてしまったけど、長い時間をかけて、今のようになったんだよ。」溶岩の流れ出る写真を食い入るように見つめる子供たち。「足下の石を拾ってみて。これは、富士山のお腹の中から出てきた石だよ。」「石には穴が開いているからよく見て。」子供たちは早速石を拾い、観察開始。

更にスタッフから、「10個のうち1個くらい当たりがあるかも」「当たり？」「この石に磁石を近づけると、くっつくのがあるから探してみて。」磁石が配られると、子供たちは目を輝かせながら、溶岩に磁石を近づけていました。「あっ！くっついた！」「えー！くっつかない。」一発でくっつく子もいれば、いくつも拾って試してもくっつかない子もいました。「この石持って帰りたい」という子もいましたが、自然の中からは持ち帰ってはいけない事を説明すると、そっとその場に戻っていました。「どうして、溶岩はくっつくのか？何が入っていると思う？」と聞くと、「鉄！」と答える子がいました。「正解！鉄が含まれているからくっつくんだね。」溶岩の中に鉄が含まれていることや、実際に、溶岩が磁石にくっつくという驚きの発見は、かけがえのない経験になったと思います。また、森の生き物についての話では、きれいな鳥の声が聞こえると、その鳥がガビチョウという鳥で、人間がそのきれいな姿が良くて飼っていたのが逃げて野生化した外来種であることを教えてもらいました。本来いなかった生き物が増えることで、生態系が崩れることや、鳥以外にもシカ、リス、カモシカ、いのししやテンなどさまざまな生き物が共存していること、動物だけでなく昆虫や植物など、この森で、「ぼくらはみんな生きている」ことを感じて欲しいというスタッフの言葉に、それぞれが思いを馳せているような表情を浮かべていました。

「これから、森の主に会いに行くよ！」スタッフがそう言うと、子供たちはまた、歩き始めました。主までの道のりでは、きのこやカマドウマなど、色々な出会いがありました。



まずは、「はじまりの会」からスタート。



フォレストウォークの前に、アイスブレイク！



フォレストウォークスタート！



富士山の森の成り立ちを真剣に聞く子供たち



富士山のお腹の中から出てきた石！



きのこ発見！
食べられるのかな？

森の主に会いに行こう！

「森の主ってどんなのかな？」「すごいデカイんだろうな。」落ち葉でフカフカの道を歩きながら、主を想像する子供たち。木々の中を進むと、スタッフから「このブナの木に巣があった所があるよ。」木を見上げると、幹に穴が開いていました。「どこどこ？」「ほら、あそこ！」見つけれない子に、先に見つけた子が教えている姿も微笑ましい光景でした。「これはアカゲラが開けたんだよ。」キツツキが1秒間に何回木をつつけるかクイズも盛り上がり、1秒間に20回つづいている事を聞いて驚いている様子でした。更に進んで行くと、「お腹すいたー。」の声。スタッフが「もう少しで主の所だから、そこでお昼にしよう。」と言うと、「やったー。」と満面の笑みがこぼれました。いよいよ、主とのご対面です。

主の前で、お待ちかねの昼食タイム！

「この木が主だよ。」目の前に現れたのは、幹に大きな洞のある椎の木でした。その大きさと迫力に、子供たちは「すげー！」「大きい！」と口々に声をあげ、大きな洞に興味津々です。洞を覗き込んで、反対側の小さな穴があるのを見つけると、すかさず外の反対側から、中の様子を伺ったり、洞に入って座り込む子もいました。洞に入った感想を聞いてみると「涼しくて、自然の匂いがする。」「落ち着く。」と、まるで主の木が子供をやさしく包み込んでくれているような感想が聞かれました。

スタッフが、「こんなに穴が開いていても生きているのは、木は幹の表層で栄養をとっているからなんだよ。この主には、他の植物も育っているのも見られるよ。」主の木には、他の植物が共生している姿が見られました。子供たちは、主の木の凄さを実感しているようでした。主を囲んでの昼食タイムは、特別な時間となりました。お昼を食べ終わると、主と一緒に記念撮影。みんな良い顔でパチリ。

森の循環を実感！

帰り道では、スタッフがフォレストウォーク中に捕まえた昆虫の観察も行われました。輪になって、順番に昆虫が入ったケースを回すと、「うわー！キモ！」という声や「これ捕まえたことある！」など様々な感想が聞かれました。まなびの森に色々な種類の昆虫が住んでいることが分かる観察時間となりました。苔むした大きな倒木の所に来ると、スタッフが「これからマジックをやるよ！手を見て」と言って、手を強く握ると、茶色の水が流れ落ちました。「おー！」歓声が上がりました。「これは、この倒れた木の腐った部分を強く握ると水がでるんだよ。やってみて」子供たちは、腐った木の部分を取って、スタッフと同じように強く握りました。すると水が滴ります。「すごーい！」「これが循環ということ。木が倒れて分解されて、また新しい命になるんだよ。」子供たちは、握ったその手で、自然の循環を感じているようでした。

スタート地点に戻って、まなびの森のスタッフから自然共生サイトについての話を聞いて、今回のフォレストウォークは終了となりました。時短での開催ではありましたが、様々な出会いや自然を体感できた学びの多い交流会となりました。



まなびの森についてのお話



循環について真剣に聞く子供たち



アカゲラの巣を発見！



いよいよ主とご対面！



洞の中でくつろぎ中



主を囲んで昼食タイム！



主の前で記念撮影



まなびの森に住む昆虫を観察